

おだか センターだより



発行日 令和 6年 5月 1日
発行 小高生涯学習センター
「浮舟文化会館」
住所 南相馬市小高区本町
2丁目89番地の1
電話 0244-44-3049
FAX 0244-44-1266

【小高生涯学習センター 新年度 職員紹介】

<小高生涯学習センター>

所長 上野 勝
主査 寺田 亮 (転入)
生涯学習指導員 菅原 芳広 (転入)
施設管理員 高田 利勝
事務補助 井島 友美

<埴谷・島尾記念文学資料館>

兼務 上野 勝
兼務 寺田 亮
事務補助 伊達 祐司

<転入職員挨拶>

主査 寺田 亮 (健康政策課から転入)

5年ぶりに浮舟文化会館に戻ってまいりました。放課後子ども教室などともに埴谷・島尾記念文学資料館の企画・運営にチカラを入れてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

生涯学習指導員 菅原 芳広
(ひばり生涯学習センターから転入)

一日でも早く地域にとけこみ、皆さまのお役にたてるよう頑張りますのでご指導よろしくお願いいたします。



現在、浮舟文化会館では五月人形を飾っています。近くに来た際には、ぜひお立ち寄りください。

<転出職員挨拶>

主査 山田 純一 (原町区市民課へ転出)

当センターでは、主に子どもを対象とする事業を4年4ヶ月担当させていただきました。

小高の子どもたちと楽しく一緒に過ごせたことは、私にとってかけがえのない時間でした。ここでの経験を次の職場でも生かしていきたいと考えております。

大変お世話になりました。

生涯学習指導員 岡崎 真奈美
(大甕生涯学習センターへ転出)

小高区の避難指示が解除になり、講座事業が震災前のように再開し、それから7年間皆様には大変お世話になりました。

4月から大甕生涯学習センターへ異動になりましたが、小高区在住ですので、これからもよろしくお願いいたします。

<生涯学習講座の予定>

5月11日(土)そば打ち教室

5月12日(日)ZUMBA教室

5月19日(日)ZUMBA教室

5月29日(水)女性学級「寄せ植え教室」

6月 2日(日)糸かけマンダラ教室

6月 8日(土)そば打ち教室

6月 9日(日)ZUMBA教室

6月12日(水)うきふね学級「小高の歴史散策」

6月23日(日)ZUMBA教室



埴谷島尾記念文学資料館 からのお知らせ

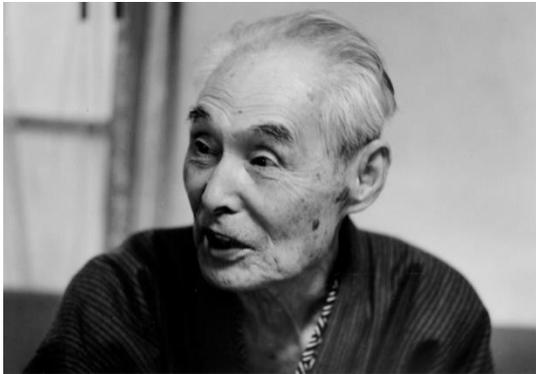
小高区ゆかりの人物

埴谷・島尾記念文学資料館の館名にもある

はにや ゆたか

「埴谷雄高」を紹介します。

701年前に相馬家とともに下向（げこう）した家臣「般若家」から生まれた逸材。目に見えないものを文字の力で可視化することに心血を注いだ戦後文学の巨匠。



埴谷雄高(1909～1997)

本名：般若豊(はんにやゆたか)

出身地：台湾新竹生まれ

本籍地：現南相馬市小高区岡田字
山田315

著書：『死霊(しれい)』

『闇のなかの黒い馬』

『不合理ゆえに吾信ず』ほか

受賞歴：第6回谷崎潤一郎賞受賞

『闇の中の黒い馬』

第8回日本文学大賞受賞

『定本 死霊』

埴谷雄高と小高の関係は、先祖が、14世紀初めに相馬家が下総国から相馬地方に移り住んだときに従った家臣団のひとつ般若家に由来し、埴谷の祖父般若源右衛門佳景（よしかげ）が、明治初期の廃藩置県により、現在小高区岡田に土地を与えられ居住したことによるもので、埴谷は生涯、本籍地を他所へ移しませんでした。

埴谷が台湾生まれであるのは、父三郎が仕事の都合で台湾へ移住し、そこで母アサと結婚したことによるものですが、1923年に日本へ戻り、東京に居住しました。

埴谷は、共産党入党後、治安維持法等により検挙され、収監中に結核を患い、出所後も結核を患ったため徴兵されず終戦を迎えました。

戦後まもなく雑誌『近代文学』を創刊し、代表作である「死霊」の執筆・連載をしました。途中腸結核による中断がありましたが、『定本 死霊』で第8回日本文学大賞を受賞しました。最終章となった第九章の発表まで約50年かかり、その2年後の1997年に脳梗塞のため、享年87歳で逝去しました。

(当文学資料館の文字は、埴谷が生前に揮毫（きごう）したものです。)

鈴木安蔵生誕120周年記念展示開催中（期間延長）

展示期間：令和6年3月5日（火）～5月12日（日）

開催場所 埴谷・島尾記念文学資料館（浮舟文化会館内）

開館時間 9時～17時

観覧料金 無料

休館日 毎週月曜日
年末年始（12月29日～1月3日）
展示資料入替期間

電話番号 0244-66-1011
(小高図書館と同じ電話番号です。)